

# 2016年3月期 第1四半期 決算補足資料

1. 決算概観(連結)
2. 業績のポイント
3. 主な子会社の業績と予想
4. 主要製品の状況
5. 開発品一覧

## 【参考資料】

6. セグメント情報
7. 業績と予想(連結)

2015年7月30日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。



# 2016年3月期 第1四半期 決算概観(連結)



(単位:百万円)

	13年3月期 第1四半期	14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	16年3月期 第1四半期	前年比	16年3月期 第2四半期 予想	前年比	16年3月期 通期予想	前年比
売上高	25,422	26,239	26,397	<b>26,567</b>	+0.6%	54,400	+6.4%	120,200	+6.3%
営業利益	4,080	4,465	3,575	<b>2,173</b>	-39.2%	3,800	-17.2%	16,000	+8.6%
経常利益	4,351	4,681	3,847	<b>2,316</b>	-39.8%	4,000	-18.3%	16,300	+5.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,838	2,996	2,681	<b>1,757</b>	-34.5%	2,600	-25.6%	11,500	-4.7%

## 16年3月期 第1四半期 連結業績(実績)

### 【売上高】

医薬品事業ではフルティフォーム等、主力品の伸長により新医薬品の売上が増加し、売上高は265億67百万円と前年に対して1億70百万円(前年比0.6%増)の増収となりました。

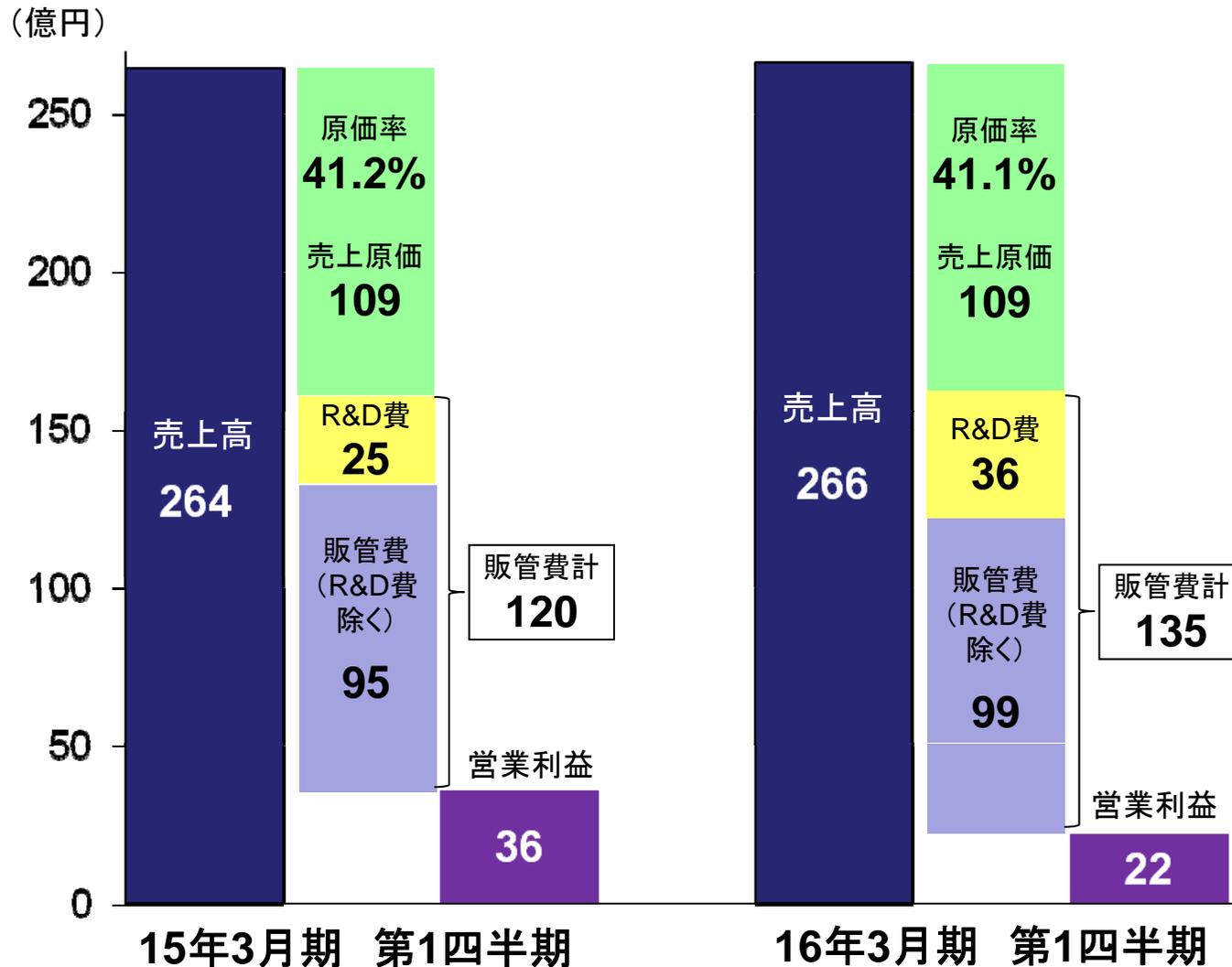
### 【利益】

前年に対して原価率は横ばいで推移し、売上総利益は1億22百万円増となりましたが、研究開発費を中心に販売費及び一般管理費が増加したため、営業利益は21億73百万円(前年比39.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億57百万円(前年比34.5%減)となりました。

## 16年3月期 連結業績(予想)

2015年5月13日に公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、現段階では変更いたしません。  
(第2四半期予想に対する進捗度 売上高:48.8% 営業利益:57.2%)

# 2016年3月期 第1四半期 業績のポイント



## ポイント①

➤売上高は2億円増加

## ポイント②

➤売上原価額は横ばい

売上総利益は2億円増加

## ポイント③

➤販管費は15億円増加

・R&D費は11億円増加

・販管費(R&D費除く)は4億円増加

営業利益は14億円減少

# 2016年3月期 第1四半期 業績の状況

(単位: 億円)

	15年3月期 第1四半期	16年3月期 第1四半期	対前年
売上高	264	266	+2
医薬品事業	261	263	+2
◆新医薬品	212	214	+2
○国内	210	212	+2
○海外	2	2	0
◆後発医薬品	40	38	-2
◆一般用医薬品他	9	10	+1
ヘルスケア事業 (スキンケア)	3	3	0
営業利益	36	22	-14
経常利益	38	23	-15
親会社株主に帰属する 四半期純利益	27	18	-9

※国内新医薬品にキョーリン製薬グループ工場の売上を含みます

				(対前年)
■売上高	266億円			(+ 2)
◆医薬品事業	263億円			(+ 2)
●国内新医薬品	212億円			(+ 2)
		14.6(1Q)	15.6(1Q)	
	・キプレス	91	⇒ 95	(+ 4)
	・ムコダイン	34	⇒ 32	(- 2)
	・ペンタサ	43	⇒ 41	(- 2)
	・ウリトス	16	⇒ 19	(+ 3)
	・フルティフォーム	4	⇒ 15	(+11)
●海外新医薬品	2億円			( 0)
	・ガチフロキサシン	1	⇒ 1	( 0)
●後発医薬品	38億円			(- 2)
	自社販売の売上は増加、他社受託ビジネスの売上は減少			
●一般用医薬品他	10億円			(+ 1)
◆ヘルスケア事業(スキンケア)	3億円			( 0)
■営業利益	22億円			(- 14)
◆営業利益率は8.2%と前年比5.3ポイント減少				
●原価率: 横ばい	(41.2%⇒41.1%)			
●研究開発費率: 前年比4.3ポイント上昇	(9.3%⇒13.6%)			
	* 11億円増加(25億円⇒36億円) プロジェクトの進捗			
●販管費率(除R&D費): 前年比1.1ポイント上昇	(36.0%⇒37.1%)			
	* 4億円増加(95億円⇒99億円) 特許等使用料の増加			
■親会社株主に帰属する 四半期純利益	18億円			(- 9)

# 主な子会社の業績と予想

(単位:億円)

杏林製薬	15年3月期 第1四半期 実績	16年3月期 第1四半期 実績	15年3月期 通期 実績	16年3月期 通期 (予想)
売上高	227	233	985	1,053
営業利益	29	16	122	133
当期純利益	24	15	104	100

キョーリンリメディオ	15年3月期 第1四半期 実績	16年3月期 第1四半期 実績	15年3月期 通期 実績	16年3月期 通期 (予想)
売上高	41	38	164	185
営業利益	6	4	21	23
当期純利益	4	3	15	16

ドクタープログラム	15年3月期 第1四半期 実績	16年3月期 第1四半期 実績	15年3月期 通期 実績	16年3月期 通期 (予想)
売上高	3	3	14	16
営業利益	0	0	0	0
当期純利益	0	0	0	0

# 2016年3月期 第1四半期 主要製品の状況

(単位:億円)

製品名		第2四半期		通期		第1四半期(4月～6月)				
		14年9月 実績	15年9月 予想	15年3月 実績	16年3月 予想	14年6月 実績	15年6月 実績	前年比	中間 進捗率	通期 進捗率
国内 新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	174	<b>181</b>	412	<b>418</b>	91	<b>95</b>	+4.7%	52.2%	22.6%
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	62	<b>52</b>	140	<b>118</b>	34	<b>32</b>	-5.6%	60.2%	26.9%
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	86	<b>84</b>	172	<b>171</b>	43	<b>41</b>	-5.5%	48.0%	23.7%
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	34	<b>38</b>	73	<b>79</b>	16	<b>19</b>	+18.5%	49.5%	23.7%
	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	9	<b>41</b>	36	<b>103</b>	4	<b>15</b>	+249.7%	37.4%	14.9%
海外 新医薬品	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	1	<b>1</b>	6	<b>4</b>	1	<b>1</b>	-26.7%	56.8%	19.7%
一般用 医薬品	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	10	<b>9</b>	20	<b>20</b>	4	<b>5</b>	+8.1%	48.8%	24.2%

# 開発品一覧①(2015年7月30日現在)

## PhⅢ ~承認

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
PhⅢ (13年8月)	【欧州】アストラゼネカ社 : 上市(15年1月)  【米国】アストラゼネカ社 : 申請準備中	KRP-AB1102F (吸入剤)	慢性閉塞性肺疾患	スペイン アルミラール社	長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(LAMA: アクリジニウム)と長時間作用性β2刺激薬(LABA: ホルモテロール)の配合剤	アルミラール社とライセンス契約 (11年2月)
PhⅢ (15年1月)	【米国、欧州、他】 米国メルク社 : PhⅡ終了	KRP-114V	過活動膀胱	米国 メルク社	膀胱のβ <sub>3</sub> 受容体に作用する事で、膀胱弛緩作用を増強し、頻尿の改善が期待される	米国メルク社とライセンス契約 (14年7月)
PhⅢ (15年4月)		KRP-AM1977X (経口剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	①薬剤耐性グラム陽性菌(MRSAを含む)に対して優れた抗菌力 ②優れた体内動態(経口吸収、組織移行) ③前臨床試験で安全性はクリア、高い安全性を期待	

# 開発品一覧②(2015年7月30日現在)

## POCプロジェクト(Ph I ~ Ph II)

※: 前回(2015年3月期 5月13日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II (11年8月)	メルツ社 Ph III	KRP-209	耳鳴	ドイツ メルツ社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	メルツ社とライセンス契約 (09年11月)
Ph II (13年3月)	導出: ノバルティス Ph II (POC) (10年12月)	KRP-203	自己免疫疾患 臓器移植 IBD	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調節剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティスとライセンス契約 (06年2月) 新たなライセンス契約 IBD(10年11月)
Ph II (14年6月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	①薬剤耐性グラム陽性菌(MRSAを含む)に対して優れた抗菌力 ②優れた体内動態(経口吸収、組織移行) ③前臨床試験で安全性はクリア、高い安全性を期待	
※Ph I / II (15年7月)	【米国】桃太郎源 : Ph I / II 前立腺がん(14年5月)	Ad-SGE-REIC	悪性胸膜中皮腫	岡山大学	岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される	産学共同実用化開発事業[NexTEP]への採択 (14年6月)

## 参考

開発段階	一般名	薬効	特徴	備考
MSD(株)が開発中(Ph III)	デスロラタジン	アレルギー性鼻炎 蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症)に伴うそう痒	第二世代ヒスタミンH1受容体拮抗薬	MSD(株)の関連会社と日本国内における共同販売契約を締結(14年11月)

# 参考資料

# 2016年3月期 第1四半期 セグメント情報

## 報告セグメントごとの売上高および利益

(単位:億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	266	+2	22	-14
医薬品事業計	263	+2	21	-14
◆新医薬品	214	+2		
○国内	212	+2		
○海外	2	0		
◆後発医薬品	38	-2		
◆一般用医薬品他	10	+1		
ヘルスケア事業計	3	0	0	0
調整額	-	-	1	0

(注)「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用し、報告セグメントは【医薬品事業】【ヘルスケア事業】としております

# 2016年3月期 第1四半期 業績と予想(連結)



(単位:百万円)

	第2四半期		通期		第1四半期(4月~6月)					
	14年9月 実績	15年9月 予想	15年3月 実績	16年3月 予想	14年6月 実績	15年6月 実績	前年差額	前年比	中間 進捗率	通期 進捗率
売上高	51,112	<b>54,400</b>	113,121	<b>120,200</b>	26,397	<b>26,567</b>	+170	+0.6%	48.8%	22.1%
医薬品事業	50,518	<b>53,700</b>	111,771	<b>118,600</b>	26,093	<b>26,251</b>	+158	+0.6%	48.9%	22.1%
◆新医薬品	40,755	<b>42,900</b>	92,111	<b>95,700</b>	21,206	<b>21,439</b>	+233	+1.1%	50.0%	22.4%
○国内	40,422	<b>42,500</b>	91,079	<b>94,700</b>	20,981	<b>21,249</b>	+268	+1.3%	50.0%	22.4%
○海外	332	<b>400</b>	1,032	<b>1,000</b>	224	<b>189</b>	-35	-15.6%	47.3%	18.9%
◆後発医薬品	7,790	<b>8,700</b>	15,477	<b>18,200</b>	3,973	<b>3,821</b>	-152	-3.8%	43.9%	21.0%
◆一般用医薬品他	1,972	<b>2,000</b>	4,183	<b>4,500</b>	913	<b>990</b>	+77	+8.4%	49.5%	22.0%
ヘルスケア事業	593	<b>700</b>	1,349	<b>1,600</b>	303	<b>316</b>	+13	+4.3%	45.1%	19.8%
営業利益	4,587	<b>3,800</b>	14,737	<b>16,000</b>	3,575	<b>2,173</b>	-1,402	-39.2%	57.2%	13.6%
経常利益	4,898	<b>4,000</b>	15,490	<b>16,300</b>	3,847	<b>2,316</b>	-1,531	-39.8%	57.9%	14.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,495	<b>2,600</b>	12,064	<b>11,500</b>	2,681	<b>1,757</b>	-924	-34.5%	67.6%	15.3%